

# 屋根葺替工事 Vol.2

## ・こけら<sup>ぶき</sup>葺が解体されました 2018. 2. 5

屋根のこけら葺きの解体作業が終わり、屋根の骨組みが姿を見せました。この解体のタイミングで屋根工事と並行し、屋根内部の構造調査を行い、飛雲閣の耐震性も診断していきます。骨組みの一部には「明治四十三年修補」と過去の解体修理の年を示す焼印が見つかり、約100年前の修復の様子が確認できます。



解体前



▲ 解体中のこけら葺屋根



解体後



▲ 飛雲閣北西側の屋根 ▲ 「明治四十三年修補」の焼印



「こけら葺」とは

「こけら」は木片のことを指し、杉やサワラの木を約3mmほどの厚さに割った板を並べて葺くことをいいます。